

株式会社亀山鑄造所

需要獲得 ものづくり

兵庫県揖保郡太子町

フルモールド鑄造法で高品質な鑄物を製造 インドネシアを拠点に海外進出

1946年鑄造業創業、現在は自動車からジェット機まで様々な部品の金型鑄物を国内外向け製造。1982年フルモールド鑄造法分野に進出、2002年3D CAD/CAMの導入により試作設計から鑄物製作まで一貫生産体制を構築。高品質、低価格、短納期のQCDを実現。自動車金型鑄物の分野ではトップクラスの業績。2017年インドネシアで現地自動車部品メーカーSASと合併会社を設立、現地日系企業などに金型鑄物を供給。

●所在地 兵庫県揖保郡太子町原519番地

●電話/FAX 079-276-0471/079-276-0472

●URL <http://kc-kameyama.com>

●代表者 代表取締役 亀山 佳裕

●設立 1953年

●資本金 2,000万円

●従業員数 49人



フルモールド鑄造法で自動車金型に特化

同社は、元素単位の金属成分調整などの技術により高品質の鑄物製造を可能にしている。消失模型も3D CAD/CAMを含む16名の技術者により「亀山鑄造所のクオリティ」を作り出している。価格面では、従来の2倍の長さの材料が搭載できる最新の発泡加工機を導入し、加工精度の向上と夜間の無人稼働により、発泡模型の増産を可能にし低価格を実現している。納期面でも、インドネシアの設計会社に一部外注しデータ作成を素早く対応することで、通常1ヶ月の納期を2週間に半減。短納期体制を構築。



新しく導入した発泡加工機

インドネシアの子会社と協力会社による連携

2013年インドネシアにおいて、当社で研修を受けた技能実習生により現地法人設立、当社からの設計を委託している。2017年には、当社の海外拠点となる子会社SAS-K(略)を現地自動車部品メーカーと共同で設立し、当社と同じフルモールド鑄造法で製作した金型鑄物を、現地に進出している日系企業を中心に供給している。SAS-Kでは、受注の75%がアルミダイキャスト金型用鑄物で、日本でもフルモールド鑄造法によるアルミダイキャスト金型用鑄物製作の新分野への取組を着手している。



SAS-Kの朝礼風景

西播磨の経済活性化等への取組

西播磨地域には鑄物の主材料である鉄スクラップを扱う業者が多いため、地元業者から月間約500トンの供給を受けており、納品についても自社便以外は地元運送業者に発注している。地元業者との連携は、互いのコスト削減につながり地域経済の活性化に寄与している。従業員についても、本社所在地の太子町から過半数、他の西播磨地域からも雇用し地元の雇用確保にも貢献している。太子町商工会、太子町経営者協会、障害者雇用勉強会ワークアップなどに参加し情報交換も行い地域の雇用促進にも関与している。



毎年4月に開催する経営指針書発表会